日刊工業新聞

年月日	22	05	24	ページ	06	NO.	

たちばな台病院

殺菌灯搭載ロボ導入

院内消毒 作業を簡便化

いまだ終息が遠い新型コロナウイルス感染症。治療の最前線である病院では、院内感染を防ぐために施設内の入念な殺菌消毒作業が必要になる。そこで活躍するのがスマートロボティクス（東京都千代田区、井島剛志社長）製の殺菌灯搭載ロボット「SR―UVC」だ。2021年冬に同ロボットを導入した、たちばな台病院（横浜市青葉区）の黒子秀一本部長は「コロナ禍によって作業が増えた看護師たちの負担を軽減できた」と評価している。（伊藤快）

新型コロナ対策として、さまざまな施設が「モデルA」を標準機とし、人工知能（AI）による人影検知機能を持つ「モデルB」、自動でルートを計算・移動する機能を追加した「モデルC」の3タイプをそろえた。同病院ではモデルBを導入し、担当の看護師が交代制で操作している。

スマートフォンやパソコンと接続した専用のコントローラーで操作する。市販のゲーム機のコントローラーのため複雑な操作は不要。前田幸恵師長は「操作はとても簡単で、短い説明を受けた後、実際にロボットを動かしたらすぐに理解できた」と強調する。

作業時間に大きな変化はないものの、自分たちが担っていた消毒作業が簡便化されたことで、患者のケアに注力できるようになった。

3タイプのサイズは台車周りが最大でも縦410ミリメートル×横520ミリメートルとコンパクトで、狭い場所でもスムーズに移動できる。スマートロボティクスの販売代理店で、SR―UVCは、ウイルス対策用のフィルターや空気清浄機などを使用していたが、明確な効果が分かりづらく、感染の懸念を拭いきれなかった。

SR―UVCは現在、全国の医療機関などで50台ほど採用されており、「採用事例が多く自治体からの補助金も出た」（黒子本部長）ことで導入に踏み切った。

新型コロナの感染は全国で警戒レベルが下がっているが、予断を許さない状況が続く。黒子本部長は「再び大きな感染拡大の波が来るかもしれない」と指摘。「ロボットで業務がさらに簡素化できたり、緊急外来に配置できたりするものがあれば導入を検討したい」としている。

（上）「SR―UVC」は波長が254ナノメートルの紫外線を照射して短時間で広範囲を消毒する
（下）操作には市販のゲーム機のコントローラーを用いる

無断転載・複写禁止ⓒ㈱日刊工業新聞社